

# 南部町

## 第2次総合計画

### 後期基本計画

(令和6年度～令和10年度)

政策1 豊かな里を紡ぐまちづくり

政策2 豊かな里が心育むまちづくり

政策3 豊かな里に調和するまちづくり

## 政策体系

めざすまちの姿 (将来像)	政 策	施 策	頁
人と自然が響き合い ともに創る なんぶ暮らし	豊かな里を 紡ぐ まちづくり	町民が主役のまちづくり	1
		活力があり、受け継がれる農林業の推進	2
		活力ある産業で輝くまちづくり	3
	豊かな里が 心育む まちづくり	心豊かな自律した子どもの育成	4
		人権が大黒柱のまちづくり	5
		生涯学習の推進	6
		歴史・文化およびスポーツの振興	7
		こどもが健やかに育つまちづくり	8
		健康づくりの推進	9
		ともに支え合い元気に暮らすまちづくり	10
	豊かな 里地里山を 守り育み 伝える なんぶ暮らし 出会いの まち	インフラを整え、安心を支える	11
		デジタル技術でより便利な環境づくり	12
		環境にやさしいまちづくり	13
		住み続けたいまちづくり	14
		出会いが広がる観光のまちづくり	15
		自然災害や犯罪などからくらしを守る	16

まちづくりの大黒柱（基本理念）

共生

協働

環境

## 政策1 豊かな里を紡ぐまちづくり

### 施策1 町民が主役のまちづくり

#### 1 めざす姿

- 町民が地域で自分たちらしく、安心して暮らしています。
- 多くの町民が地域に関心を持ち、まちづくりに参画しています。

#### 2 現状の成果と課題

##### 【成果】

- 地域防災の分野など、町民・集落・地域振興協議会・役場で、地域が直面している課題解決に取り組むことができました。
- 社会の変化に対応し、行政の情報発信の手段として、テノヒラ役場の導入などデジタル化を推進しました。

##### 【課題】

- 町民が望む安心とは何か、町全体や地域振興協議会等で話し合う場がさらに必要です。また、これまでに話し合った結果、明確になった公共の課題に対して、誰が・どう取り組んでいるのか、このままの体制で対応できるのか、町民との対話の場もさらに必要です。
- 広報誌をはじめSNS等様々な媒体を活用した情報発信は行っていますが、町民にとって何が必要な情報かを十分に把握できていません。

#### 3 今後の方向性

- 社会や生活様式の変化を踏まえ、町民が安心して暮らせるように、町民自身が主体的に、地域振興協議会や集落の方々が協働で行う地域づくりを進めます。
- 町民に必要な情報を把握し、対象にあわせた適切な情報を発信・提供します。

## 政策1 豊かな里を紡ぐまちづくり

### 施策2 活力があり、受け継がれる農林業の推進

#### 1 めざす姿

- 農業者が農地の生産力を維持して、保全しています。
- 農林産物の付加価値と知名度が向上し、農業収入が安定しています。
- 森林資源、竹林資源が有効活用されることで、林地の荒廃が防がれ、豊かな里山の保全につながっています。

#### 2 現状の成果と課題

##### 【成果】

- 生産基盤強化と農林地の集積の取組により、一定の生産効率化が図られています。
- 中山間直接支払いや森林計画などを通じて地域での農地及び森林の維持活動が推進されています。
- 複数の作目で共同出荷が行われており、産地化が進められています。加えて、加工業者への原材料供給により付加価値の向上が図られています。
- 間伐材搬出は、計画以上の実績を有し、一部地域において森林施業が進んでいます。

##### 【課題】

- コスト高などの外的要因により、農業者の経営が安定しません。
- 農林産物の付加価値向上については、特定の作目での産地化や加工の取組が進む一方、新規参入の停滞や販売から漏れる規格外品の活用などが課題となっています。
- 竹林整備においては、着手後の管理を地域が一体となって取り組む必要があることやその趣旨を十分に理解してもらうことができていないため、実施集落数が伸び悩んでいます。

#### 3 今後の方向性

- 農業経営の基盤整備を促進するため、集落営農組織の法人化等を行い農地の保全と耕作放棄地の抑制を図ります。
- 地域で作られる農産物を使った新たな商品開発に農業者等と協働して取り組み、これを中心に据えたフルーツロード構想を地域政策として進めます。
- 果樹栽培等に関心を持つ就農希望者に向け、支援策等の情報発信を強化していきます。
- 地権者等へ森林経営管理制度の周知を図るとともに、森林組合等林業事業者と連携し、森林経営計画の策定を推進します。
- 森林環境譲与税を新たな財源として活用し、森林施業を促進していきます。

## 政策1 豊かな里を紡ぐまちづくり

### 施策3 活力ある産業で輝くまちづくり

#### 1 めざす姿

- 町内事業者の経営が安定し、地域経済が活性化しています。
- 町内企業が持続的に活動し、地域雇用の場が確保され、そこで働く方が生き生きと活動しています。
- 町内における就労、起業、または事業承継を考える人が増えています。

#### 2 現状の成果と課題

##### 【成果】

- 町内事業者限定で利用できる地域通貨『たすカード』の導入により、町民の地元消費意識の向上、町内事業者活性化への一助とすることができました。
- コロナ禍には、町内事業者を積極的に支援し、事業継続を図ることができました。
- しごとコンビニの導入により、町民の多様な働き方を支援し、事業者の働き方改革の支援にもつながっています。

##### 【課題】

- たすカード事業、しごとコンビニ事業に参画する町内事業者が増えていません。
- 町内企業で働く外国人の数は把握できているものの、活動状況まで把握ができていません。
- 事業承継に関する支援制度や支援体制については、商工会等と連携して取り組んでいるものの、支援を必要とする町内事業者の現状把握が十分にできていません。

#### 3 今後の方向性

- たすカード事業の実施にあたっては、商工会、町内事業者等との連携を深め、また、利用者の意見を取り入れるなど、町民の生活に根付いたものとなるよう改善していきます。
- 雇用創出と労働力確保に取り組む町内企業等への支援を行います。特に、町内企業で働く外国人の方とも、地域の文化や習慣を理解し、互いに交流できるよう企業と協働した取組を推進します。
- 町の子どもたちや町とのつながりを持つ町外の人たちに、町内の企業や事業所、農家等で働く人たちと接する機会を積極的に提供していきます。

## 政策2 豊かな里が心育むまちづくり

### 施策1 心豊かな自律した子どもの育成

#### 1 めざす姿

- 子ども一人ひとりが夢や目標をもち、努力し続ける子ども、皆の気持ちを理解し共に支え合う子どもに育っています。
- 子ども一人ひとりがいつまでもどこにいてもふるさとを想い、ふるさとを大事にできる人に育っています。

#### 2 現状の成果と課題

##### 【成果】

- コミュニティ・スクールの取組により、子どもと地域、学校と地域というつながりができ、地域の学校運営への参画意識が高まってきています。
- 令和6年度全国学力・学習状況調査において、『自分にはよいところがある』、『地域をよくするために何かしたい』などの項目で、町内小中学校の割合が県平均を上回っており、子どもたちの中に「まち未来科」での学びが醸成されています。

##### 【課題】

- コミュニティ・スクールの取組も町内全体に浸透できているとは言えず、取組の周知や学校運営協議会とCS委員会との関係性の再構築が求められています。
- 子ども一人ひとりが夢や希望をもてるよう、子どもたちに自己肯定感や自己有用感をより一層育むことが必要です。

#### 3 今後の方向性

- 学校運営に地域住民等が参画する仕組みであるコミュニティ・スクールをより一層推進することにより、児童生徒・教職員・保護者・地域住民が協働して、子どもたちの学ぶ環境を充実させていきます。
- 子どもたちが「健全な心と体」、「確かな学力」、「学び続ける力」、「未来を生き抜く力」を育むため、地域及び関係各所と連携・協働していきます。

※南部町教育のめざす「自律」とは、町民一人ひとりがふるさとを愛し、誇りと自信を持って、個性・可能性を発揮できることであり、子どもたちが、志を高く持ち、自分の夢や生き方に向かって、充実した人生を主体的に切り拓いていくことです。

※「コミュニティ・スクール」とは、学校と町民等が力を合わせて学校の運営に取り組むしくみです。「地域とともにある学校」への転換を図ることができる有効な取組となっています。

※「まち未来科」とは、ふるさと愛着力・将来設計力・社会参画力・人間関係調整力の4つの力を育むことをめざした南部町独自の学びの領域です。

## 政策2 豊かな里が心育むまちづくり

### 施策2 人権が大黒柱のまちづくり

#### 1 めざす姿

○町民一人ひとりが人権尊重社会の担い手であることを意識しながら行動しています。

#### 2 現状の成果と課題

##### 【成果】

○ミカエル・セミナー等で人権学習推進委員や人権擁護委員等が人権の学びを深めることができおり、人権を通じた地域づくり、交流懇談会等のつながりづくりに役立っています。

##### 【課題】

○個人の知識・意識の向上は見られるものの、主体的に仲間をけん引するには至らず、人権啓発の広がりが課題となっています。

#### 3 今後の方向性

○地域とともに取り組む保・小・中人権教育プログラムなどを通じて、お互いを認め合い大切にする人権学習を実践します。

○家庭においても、日ごろから人権について話をする機会をもつことにつながるような取組を推進します。

○地域振興協議会別の交流懇談会やミカエル・セミナー等の学びを通して、人権課題に気づき・考え・行動する仲間を増やし、お互いを認め合い、大切にする「人権感覚」をより身近なものにしていきます。

※「ミカエル・セミナー」とは、南部町人権会議が主催する、『自分をカエル、見方をカエル』をキャッチフレーズに、様々な人権問題を主体的に学ぶことができるセミナーのことです。近年は、障がいと人権、同和問題と人権、アンコンシャスバイアスと人権などのテーマを設定し、人権学習・啓発活動の充実をめざしています。

## 政策2 豊かな里が心育むまちづくり

### 施策3 生涯学習の推進

#### 1 めざす姿

○町民の誰もが人づくり・まちづくり・つながりづくりの主役となっています。

#### 2 現状の成果と課題

##### 【成果】

○65歳以上の高齢者を中心に公民館等の活動が活発に行われ、学びを通じた生きがいづくり、仲間づくりが展開できています。

○子どもたちの活動が、大人、若者たちの手によって意義ある内容になってきています。

○自ら生涯学び、楽しむ場として図書館を利用される方が増えています。

##### 【課題】

○子育て・壮年世代、障がいのある方等の現状やニーズ把握、学習機会の提供が課題です。

#### 3 今後の方向性

○地域の特性や課題、多様な世代のニーズに応じた学習機会を提供し、町民の地域社会への参加・参画を推進します。

○高校生サークルや青年団などの若者が、地域づくり活動を通じて仲間と協働できる地域リーダーに育っていけるよう、若者の取組を支援します。

○地域を支え、町民の暮らしに役立つ図書館活動を推進します。

## 政策2 豊かな里が心育むまちづくり

### 施策4 歴史・文化およびスポーツの振興

#### 1 めざす姿

- 町民が芸術文化活動を活発に行うとともに、里地里山・歴史・文化財の魅力が共有されています。
- 町民がスポーツを通じた健康づくりや仲間づくりに、積極的に取り組んでいます。

#### 2 現状の成果と課題

##### 【成果】

- 自然や歴史、文化、民俗など郷土の魅力をなんぶふれあい館等で、日常的に学ぶ機会を提供できています。
- 総合型地域スポーツクラブとの協働により、様々なスポーツ活動を提供することができています。

##### 【課題】

- 青少年の体力向上、障がいのある方のスポーツ活動への参加など多様なニーズに対応することができていません。

#### 3 今後の方向性

- 町民が芸術文化に触れる機会を充実させ、自主的な芸術文化活動の推進を図ります。
- 里地里山の自然・郷土の歴史・文化を保存、継承することを通して、まちづくりや故郷への誇りを醸成することにつなげます。
- 地域・学校・総合型地域スポーツクラブが協働し、町民それぞれのライフステージに応じたスポーツ活動を推進します。

## 政策2 豊かな里が心育むまちづくり

### 施策5 こどもが健やかに育つまちづくり

#### 1 めざす姿

○子育て世代が、こどもを安心して生み育てることができ、こどもが健やかに育っています。

#### 2 現状の成果と課題

##### 【成果】

○子育て世代を対象とした子育てアンケートの結果では、町独自の経済的子育て支援策の充実等を評価いただき、満足度が高いものとなっています。

##### 【課題】

○少子化や核家族化の進行、共働き家庭の増加など、家族形態の多様化により、こどもや子育て家庭を取り巻く環境が大きく変化している中で、求められる施策の形態も複雑化しています。

○子育て支援策は未就学児家庭を対象としたものが多く、小中高校生のための家庭以外での居場所や悩みを相談する窓口設置などの環境整備が必要です。

#### 3 今後の方向性

○安心してこどもを産み育てられるよう、妊娠期から出産、子育て期と切れ目のない包括的な子育て相談支援窓口の充実を図ります。

○地域の中で見守られている安心感を得ることができ、生き生きとこどもが育つ環境を整えます。

○こどもの居場所を提供し、こどもの抱える悩みを取り除き、健全な成長ができる環境づくりを推進します。

※「こども」とは、こども基本法において「心身の発達の過程にある者」と定義されています。その基本理念として、全てのこどもについて、その健やかな成長が図られる権利が等しく保証されることが定められており、18歳や20歳といった特定の年齢で必要なサポートが途切れることのないよう本ページでは、子ども家庭庁が推奨する平仮名で表記しています。

## 政策2 豊かな里が心育むまちづくり

### 施策6 健康づくりの推進

#### 1 めざす姿

○町民の健康に対する意識が高まり、町民の健康寿命が延びています。

#### 2 現状の成果と課題

##### 【成果】

- コツチャレなんぶ（90日間の運動チャレンジ）は、毎年定員いっぱいの参加者（250名）があり、多くの町民が健康づくりに意識して取り組んでいることがうかがえます。
- 健診対象者が受診しやすいよう健診の環境を整え、一定の受診率が維持できています。
- 100歳体操についても、取り組む集落が年々増え、生涯健康づくりに取り組める環境が整備されてきています。

##### 【課題】

- コツチャレなんぶに限らず、運動習慣に取り組める環境を整える必要があります。
- 健診受診者が固定化しています。健診を受けていない方にも健診の必要性や受診勧奨などの働きかけが必要です。
- 100歳体操未実施集落の方でも参加しやすい体制づくりを整えていくことが必要です。

#### 3 今後の方向性

- 町民一人ひとりに健康的な生活を身に付けてもらうため、65歳以上の高齢者向けの軽い運動や、継続的なウォーキング、塩分摂取量の指導など、町民の年齢や健康状態に合わせたアドバイス、サポートを行っていきます。
- 町民が健診を受けやすい環境づくりに努めるとともに広報を行います。
- 町民一人ひとりが気軽に健康づくりに参加できるよう、100歳体操などの事業をより多くの集落、公民館などで行っていきます。

※「健康寿命」とは、ある健康状態で生活することが期待される平均期間を指す指標のことで健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のことです。

※「100歳体操」とは、集落公民館などに集まり、椅子に座ったままで行う筋力運動の体操です。個々に合わせたおもりを使い、ゆっくりと手足を動かすことで体力がつくとされています。

## 政策2 豊かな里が心育むまちづくり

### 施策7 とともに支え合い元気に暮らすまちづくり

#### 1 めざす姿

- 町民が役割をもち、つながりあい、自分らしく活躍できています。
- 誰もが、地域で孤立することなく安心して暮らしています。

#### 2 現状の成果と課題

##### 【 成 果 】

- 地域福祉計画の策定にあたり、行政・福祉団体・地域代表等の関係者による話し合いができ、地域振興協議会におけるモデル地区事業を4か所で実施することができました。
- 支援を必要とする町民に対して福祉関係各機関が連携を取りながら、ケース対応、サービス提供ができています。

##### 【 課 題 】

- 町民の方や地域の福祉課題についての現状把握が十分にできていません。
- 町民の生活課題が複雑化、多様化しているため、様々な制度を組み合わせる等の対応が必要となっています。また、高齢者・障がい・子育て等の各制度だけでは対応が困難な複合化した課題の把握と対応も必要になっています。

#### 3 今後の方向性

- 複雑化、多様化する福祉課題を把握し、対応できる体制の強化や地域住民及び関係団体等との連携・協働により、みんなが役割をもち、つながりあい、自分らしく活躍できる地域福祉を推進します。
- 介護・障がい・子ども・生活困窮などの様々なニーズに対応した相談体制を充実するとともに、支援を必要とする町民が、地域で孤立をしないための環境整備に様々な機関と協働して取り組みます。

## 政策3 豊かな里に調和するまちづくり

### 施策1 インフラを整え、安心を支える

#### 1 めざす姿

- インフラ施設（道路・上下水道）が適正に管理され、町民が安心・安全に暮らしています。
- 公共交通等の利便性が向上し、移動手段が確保され、誰もが移動に困ることがありません。

#### 2 現状の成果と課題

##### 【成果】

- 老朽化が進むインフラ施設（道路・上下水道）は、長寿命化計画に基づき計画的更新、修繕を行い、その機能を維持しています。
- OAI デマンド交通システムを町営ふれあいバス運行エリア全域で導入し、乗降ポイントを277か所まで増加させたことにより、町民の利便性が向上しました。

##### 【課題】

- インフラ施設（道路・上下水道）の老朽化は一斉に進んでおり、その維持管理には多額の経費を要するようになっていきます。また、人口減少にそなえた施設更新も今後の課題です。
- 町営ふれあいバスの仕組みが町民に浸透せず、その利用が一部の町民に限られてしまっています。

#### 3 今後の方向性

- 町民が安心してインフラ施設（道路・上下水道）を利用できるよう、適正な点検、維持管理を行います。また長寿命化計画についても必要に応じた見直しを行い、施設の延命化を図り更新費用の削減に努めます。
- 公共交通利用者のニーズに対応できるように交通体系を見直すとともに、町内の様々な団体との協働により、町営ふれあいバスを中心とした持続可能な移動手段を提供していきます。
- より多くの町民に公共交通を利用してもらうため、イベント等を企画・実施していきます。

## 政策3 豊かな里に調和するまちづくり

### 施策2 デジタル技術でより便利な環境づくり

#### 1 めざす姿

○町民が年齢などに関係なく生活の様々な分野で、デジタル技術を活用できています。

#### 2 現状の成果と課題

##### 【成果】

- 町内全域に高速・大容量無線通信を行える光ファイバ網を敷設することにより、デジタル環境の基盤整備をすることができました。
- テノヒラ役場（スマートフォンで行う行政手続き）の導入により、町からの情報発信が容易に行えるようになり、また、導入したコネクテッドカー（情報通信技術端末としての機能を有する自動車）が情報通信基盤が整備されていない場所に出向き、町民に選挙の期日前投票を行っていただけるようになりました。
- 町民誰もが参加できるスマホ教室やスマホなんでも相談会を地域のあらゆる場所で開催したことで、多くの町民にスマートフォンの操作に慣れ親しんでもらうことができました。

##### 【課題】

- デジタル技術を活用した行政手続きは増えてきているものの、窓口での手続き・紙による申請・電話での相談が必要な行政手続きが数多く残っています。また、オンラインでできる行政手続きにも、一部、役場への来庁が必要なものがあります。
- スマートフォンで行う行政手続きや町の情報入手などができない、またはこれを難しいと感じている町民もあり、何が支障になっているのかを把握して、対策を取っていくことが必要です。

#### 3 今後の方向性

- 行政手続きのデジタル化・オンライン化を推進し、来庁しなくても手続き可能な環境を整備していきます。
- 町民誰もが、デジタル化のメリットを感じることができる機会をつくれます。
- デジタルに不慣れな方に対し、楽しくデジタルを学ぶ機会を提供します。

## 政策3 豊かな里に調和するまちづくり

### 施策3 環境にやさしいまちづくり

#### 1 めざす姿

○町民や企業が、循環型社会の担い手であることを意識しながら、環境にやさしい行動に取り組んでいます。

#### 2 現状の成果と課題

##### 【成果】

- 町関連施設への太陽光発電の積極的な導入、家庭用発電設備導入への支援により、町民の再生可能エネルギーへの関心が高まっています。
- テノヒラ役場の機能を活用して、ごみ出しの日にちをお知らせするなどの取組により、適正なごみ処理が推進されています。
- 町民の環境に対する意識が高まり、ごみのリサイクル率は県の平均よりも高くなっています。

##### 【課題】

- 家庭用・事業所用の発電設備に対する町の補助金はあるものの、利用件数が伸び悩んでいます。
- 家庭・事業所から出る可燃ごみは減少傾向ですが、さらなるごみの減量化・リサイクル率向上のために分別を徹底する必要があります。

#### 3 今後の方向性

- 再生可能エネルギーの利用を促す取組を紹介するなど、広報に工夫を凝らしながら、家庭や事業所への発電設備の導入を進めます。
- ごみを減らすために、不要なものを買わない・もらわない（R e f u s e ・リフューズ）、ごみの排出抑制に取り組む（R e d u c e ・リデュース）、使えなくなるまで繰り返し使う（R e u s e ・リユース）、分別を徹底し資源を再利用する（R e c y c l e ・リサイクル）の4Rの普及啓発に取り組みます。

## 政策3 豊かな里に調和するまちづくり

### 施策4 住み続けたいまちづくり

#### 1 めざす姿

- 移住者が地域住民とともに『なんぶ暮らし』を大切に、定住しています。
- 都市部企業や町に縁のある方、町外の団体等が町民や町内団体等とともに活動し、まちづくりに参画しています。

#### 2 現状の成果と課題

##### 【成果】

- NP0 と協働した空き家利活用などの取組により、子育て世代等の移住が増加しています。
- 小中学生向けのしごと講座を実施し、企業見学等町内企業の魅力を知ってもらうことができました。
- 地域振興協議会や地域再生を推進している法人等を主体として、地域の賑わいづくりにつながる様々な事業が実施されています。
- 都市部企業や大学等と協働して地域課題解決に取り組むことにより、関係人口が増えてきています。

##### 【課題】

- 空き家の利用を希望する移住希望者のニーズに供給が追いつかず、入居待ちが常態化してしまっています。
- 子どもたちは、地域で活動する機会が少なくなり、地域との関わりが希薄になっています。
- 少子高齢化や若者世代の人口流出により地域の賑わいづくりの担い手が減少しています。

#### 3 今後の方向性

- 田舎暮らし、就農・起業など多様な移住ニーズに対応できる受け入れ体制の整備に、庁内関係部署、関係団体、地域との連携・協働で取り組みます。
- 子どもの頃から地域活動やまちづくりへの参画を活発化させることで、地域住民との縁を深めます。
- 地域内外の多様な団体と継続した取組を行うことで、定期的な人の流れを生み出し、関係人口を増加させるとともに、地域内でのまちづくりの担い手育成につなげます。

## 政策3 豊かな里に調和するまちづくり

### 施策5 出会いが広がる観光のまちづくり

#### 1 めざす姿

○町の観光資源に魅力を感じる新たな観光客とリピーターが増加しています。

#### 2 現状の成果と課題

##### 【成果】

- さくらまつりをはじめとする季節を感じられる様々なイベントには、町内外からの来場者が多く、リピーターをつくるできています。
- 農泊体験事業には、県外・国外からも多くの関心が寄せられ、関係人口、交流人口の創出につながっています。

##### 【課題】

- 地域経済の活性化につながるような観光商品等の開発ができていません。
- 増加する外国人観光客の受け入れに向けた環境整備等の取組が進んでいません。
- 農泊体験事業のニーズに対し、これに取り組もうとする事業者等が増えていません。

#### 3 今後の方向性

- 緑水湖周辺やとっとり花回廊、赤猪岩神社等、里地里山・神話等の資源を活かした観光の魅力をブラッシュアップし、サイクリングなどのスポーツツーリズムの環境整備を行いながら、新たな観光客の獲得をめざします。
- インバウンド需要の獲得に向けた充実したメニューの提供や多言語対応等の環境整備、外国人向け観光モデルコースの開発に取り組みます。
- 農泊体験などの滞在交流型観光を推進し、周遊型観光では気づかない里地里山の魅力を体験してもらうとともに、地域とのつながりが生まれることによる関係人口の創出へとつなげていきます。

## 政策3 豊かな里に調和するまちづくり

### 施策6 自然災害や犯罪などからくらしを守る

#### 1 めざす姿

- 町民が自然災害から生命や財産を守ることができています。
- 町民が交通安全・防犯に対する意識を高め、安心・安全に暮らしています。

#### 2 現状の成果と課題

##### 【成果】

- 町民の防災意識の高まりにより、南部町内の防災士養成研修受講者数は45名となり、地域における防災訓練の指導者として中心的な存在となっています。
- 災害時要支援者支援事業（支え愛マップ）実施集落数は47集落（全集落の51.1%）となり、各集落内でどのような方がお住まいで、災害時にどう避難するか、誰が誰を助けるかといった対応を確認することができています。
- 交通安全キャンペーンを毎年4回開催することで、町民の交通安全に対する意識が高まっています。
- 消費生活相談専門員による相談を定期的を実施することで、町民が消費者としての相談を行うことができる体制を整備できています。

##### 【課題】

- 近年、災害が多様化、激甚化（大雨・巨大地震）しており、多種多様な災害への備えが必要となっている一方で、過疎・高齢化により低下している地域防災力のさらなる向上が必要となっています。
- 防災訓練の実施や支え愛マップ等の整備により、地域での話し合いがなされている地域があるものの防災意識、取組などが十分でない地域も存在しています。
- 交通事故件数は減少傾向にあるものの、依然として65歳以上の高齢者の事故割合は高くなっています。
- 特殊詐欺や闇バイト等新たな手口の犯罪が次々と出てくるため、10代、20代の若者・65歳以上の高齢者を中心とした被害がなくなりません。

#### 3 今後の方向性

- 『自助』『共助』及び『公助』の役割分担を明確にし、相互連携による総合的な防災力の強化を図ります。
- 町民が暮らす住まいの安全性向上について、住宅の耐震化を中心に企業等と連携を図りながら支援していきます。
- 町民が正しい交通マナーを実践し、習慣化することで交通事故のない町をめざします。
- 特殊詐欺等に対する啓発活動や、防犯灯の設置など、町民が犯罪にあわない地域づくりを関係機関と連携して推進します。